

III

学部・研究科等による 取組み

III-4 東京キャンパス

東京キャンパス学年暦 231

人文学部 233

学部レビュー

- 1 学生の受け入れ
- 2 教育課程
- 3 学生支援
- 4 進路支援
- 5 研究活動
- 6 社会貢献
- 7 自己点検・評価

2018 (平成30) 年度 東京キャンパス〔人文学部〕 学年暦

4 月		5 月		6 月	
1 日	火	1 日	火	1 日	金
2 日	水	2 日	水	2 日	土
3 日	木	3 日	木	3 日	日
4 日	金	4 日	金	4 日	月
5 日	土	5 日	土	5 日	火
6 日	日	6 日	日	6 日	水
7 日	月	7 日	月	7 日	木
8 日	火	8 日	火	8 日	金
9 日	水	9 日	水	9 日	土
10 日	木	10 日	木	10 日	日
11 日	金	11 日	金	11 日	月
12 日	土	12 日	土	12 日	火
13 日	日	13 日	日	13 日	水
14 日	月	14 日	月	14 日	木
15 日	火	15 日	火	15 日	金
16 日	水	16 日	水	16 日	土
17 日	木	17 日	木	17 日	日
18 日	金	18 日	金	18 日	月
19 日	土	19 日	土	19 日	火
20 日	日	20 日	日	20 日	水
21 日	月	21 日	月	21 日	木
22 日	火	22 日	火	22 日	金
23 日	水	23 日	水	23 日	土
24 日	木	24 日	木	24 日	日
25 日	金	25 日	金	25 日	月
26 日	土	26 日	土	26 日	火
27 日	日	27 日	日	27 日	水
28 日	月	28 日	月	28 日	木
29 日	火	29 日	火	29 日	金
30 日	水	30 日	水	30 日	土
31 日	木	31 日	木	31 日	日
1 日	水	1 日	水	1 日	土
2 日	木	2 日	木	2 日	日
3 日	金	3 日	金	3 日	月
4 日	土	4 日	土	4 日	火
5 日	日	5 日	日	5 日	水
6 日	月	6 日	月	6 日	木
7 日	火	7 日	火	7 日	金
8 日	水	8 日	水	8 日	土
9 日	木	9 日	木	9 日	日
10 日	金	10 日	金	10 日	月
11 日	土	11 日	土	11 日	火
12 日	日	12 日	日	12 日	水
13 日	月	13 日	月	13 日	木
14 日	火	14 日	火	14 日	金
15 日	水	15 日	水	15 日	土
16 日	木	16 日	木	16 日	日
17 日	金	17 日	金	17 日	月
18 日	土	18 日	土	18 日	火
19 日	日	19 日	日	19 日	水
20 日	月	20 日	月	20 日	木
21 日	火	21 日	火	21 日	金
22 日	水	22 日	水	22 日	土
23 日	木	23 日	木	23 日	日
24 日	金	24 日	金	24 日	月
25 日	土	25 日	土	25 日	火
26 日	日	26 日	日	26 日	水
27 日	月	27 日	月	27 日	木
28 日	火	28 日	火	28 日	金
29 日	水	29 日	水	29 日	土
30 日	木	30 日	木	30 日	日
31 日	金	31 日	金	31 日	月

4 月

5 月

6 月

7 月

8 月

9 月

10 月

11 月

12 月

1 月

1 日	火	創立記念日 (4/23) の振替休日	1 日	金	⑦
2 日	水	海の日 (7/16) の振替休日	2 日	土	⑦
3 日	木	憲法記念日	3 日	日	⑧
4 日	金	みどりの日	4 日	月	⑧
5 日	土	こどもの日	5 日	火	⑧
6 日	日		6 日	水	⑧
7 日	月		7 日	木	⑧
8 日	火		8 日	金	⑧
9 日	水		9 日	土	
10 日	木		10 日	日	
11 日	金		11 日	月	⑨
12 日	土		12 日	火	⑨
13 日	日		13 日	水	⑨
14 日	月		14 日	木	⑨
15 日	火		15 日	金	⑨
16 日	水		16 日	土	⑧
17 日	木		17 日	日	⑧
18 日	金		18 日	月	⑩
19 日	土		19 日	火	⑩
20 日	日		20 日	水	⑩
21 日	月		21 日	木	⑩
22 日	火		22 日	金	⑩
23 日	水		23 日	土	⑨
24 日	木		24 日	日	
25 日	金		25 日	月	⑪
26 日	土		26 日	火	⑪
27 日	日		27 日	水	⑪
28 日	月		28 日	木	⑪
29 日	火		29 日	金	⑩
30 日	水		30 日	土	⑩
31 日	木		31 日	日	
1 日	水	⑩ 試験・補講	1 日	土	
2 日	木	⑩ 試験・補講	2 日	日	
3 日	金	⑩ 試験・補講 入試 (傘下校 (真駒))	3 日	月	
4 日	土	⑩ 試験・補講	4 日	火	
5 日	日	⑩ 試験・補講	5 日	水	追試験
6 日	月	⑩ 試験・補講	6 日	木	追試験
7 日	火	⑩ 試験・補講	7 日	金	
8 日	水	⑩ 試験・補講	8 日	土	
9 日	木	⑩ 試験・補講	9 日	日	
10 日	金	⑩ 試験・補講	10 日	月	① 後学期：講義開始
11 日	土	⑩ 試験・補講	11 日	火	①
12 日	日	⑩ 試験・補講	12 日	水	①
13 日	月	⑩ 試験・補講	13 日	木	①
14 日	火	⑩ 試験・補講	14 日	金	①
15 日	水	⑩ 試験・補講	15 日	土	①
16 日	木	⑩ 試験・補講	16 日	日	①
17 日	金	⑩ 試験・補講	17 日	月	② 入試 (9月AO)
18 日	土	⑩ 試験・補講	18 日	火	② 敬老の日 (通常授業日)
19 日	日	⑩ 試験・補講	19 日	水	②
20 日	月	⑩ 試験・補講	20 日	木	②
21 日	火	⑩ 試験・補講	21 日	金	②
22 日	水	⑩ 試験・補講	22 日	土	②
23 日	木	⑩ 試験・補講	23 日	日	②
24 日	金	⑩ 試験・補講	24 日	月	③ 秋分の日 第6回オープンキャンパス
25 日	土	⑩ 試験・補講	25 日	火	③ 振替休日 (通常授業日)
26 日	日	⑩ 試験・補講	26 日	水	③
27 日	月	⑩ 試験・補講	27 日	木	③
28 日	火	⑩ 試験・補講	28 日	金	③
29 日	水	⑩ 試験・補講	29 日	土	③
30 日	木	⑩ 試験・補講	30 日	日	
31 日	金	⑩ 試験・補講	31 日	月	

10 月		11 月		12 月	
1 月 ④	木 ⑦	1 日 ⑦	1 日 ①	1 日 ①	1 日 ①
2 火 ④	金 ⑧	2 日 ⑧	2 日 ②	2 日 ②	2 日 ②
3 水 ④	土 ⑨	3 日 ⑨	3 日 ③	3 日 ③	3 日 ③
4 木 ④	日 ⑩	4 日 ⑩	文化の日 (通常授業日)	4 日 ④	入学 (傘下校 (与野))
5 金 ④	月 ⑪	5 日 ⑪		5 日 ⑤	成瀬会 (2限・全日休講)
6 土 ④	火 ⑫	6 日 ⑫		6 日 ⑥	水 ⑫
7 日	水 ⑬	7 日 ⑬		7 日 ⑦	木 ⑫
8 月 ⑤	木 ⑭	8 日 ⑭		8 日 ⑧	土 ⑫
9 火 ⑤	金 ⑮	9 日 ⑮		9 日 ⑨	日 ⑬
10 水 ⑤	土 ⑯	10 日 ⑯		10 日 ⑩	月 ⑬
11 木 ⑤	日 ⑰	11 日 ⑰		11 日 ⑪	火 ⑬
12 金 ⑤	月 ⑱	12 日 ⑱		12 日 ⑫	水 ⑬
13 土 ⑤	火 ⑲	13 日 ⑲		13 日 ⑬	木 ⑬
14 日	水 ⑳	14 日 ⑳		14 日 ⑭	金 ⑬
15 月 ⑥	木 ㉑	15 日 ㉑		15 日 ⑮	土 ⑬
16 火 ⑥	金 ㉒	16 日 ㉒		16 日 ⑯	日 ⑭
17 水 ⑥	土 ㉓	17 日 ㉓		17 日 ⑰	月 ⑭
18 木 ⑥	日 ㉔	18 日 ㉔	入学 (11月AO・指定校推薦・公募推薦・傘下校 (淑徳))	18 日 ⑱	火 ⑭
19 金 ⑥	月 ㉕	19 日 ㉕		19 日 ⑲	水 ⑭
20 土 ⑥	火 ㉖	20 日 ㉖		20 日 ⑳	木 ⑭
21 日 ⑦	水 ㉗	21 日 ㉗		21 日 ㉑	金 ⑭
22 月 ⑦	木 ㉘	22 日 ㉘		22 日 ㉒	土 ⑭
23 火 ⑦	金 ㉙	23 日 ㉙	勤労感謝の日 液態窒素準備日	23 日 ㉓	年内講義終了 天皇誕生日
24 水 ⑦	土 ㉚	24 日 ㉚	液態窒素 第7回オープンキャンパス	24 日 ㉔	振替休日
25 木 ⑦	日 ㉛	25 日 ㉛	液態窒素 第8回オープンキャンパス	25 日 ㉕	文化の日 (11/3) の振替休日
26 金 ⑦	月 ㉜	26 日 ㉜	体育の日 (10/8) の振替休日	26 日 ㉖	文化の日 (11/3) の振替休日
27 土 ⑦	火 ㉝	27 日 ㉝		27 日 ㉗	事務局休暇開始
28 日 ⑧	水 ㉞	28 日 ㉞		28 日 ㉘	土 ⑮
29 月 ⑧	木 ㉟	29 日 ㉟		29 日 ㉙	日 ⑮
30 火 ⑧	金 ㊱	30 日 ㊱		30 日 ㉚	月 ⑮
31 水 ⑧	土 ㊲	31 日 ㊲		31 日 ㉛	火 ⑮
1 火 ⑨	日 ㊳			1 日 ㉜	金 ⑮
2 水 ⑨	月 ㊴			2 日 ㉝	土 ⑮
3 木 ⑨	火 ㊵			3 日 ㉞	日 ⑯
4 金 ⑨	水 ㊶			4 日 ㉟	月 ⑯
5 土 ⑨	木 ㊷			5 日 ㊱	火 ⑯
6 日 ⑩	金 ㊸			6 日 ㊲	水 ⑯
7 月 ⑩	土 ㊹			7 日 ㊳	木 ⑯
8 火 ⑩	日 ㊺			8 日 ㊴	金 ⑯
9 水 ⑩	月 ㊻			9 日 ㊵	土 ⑯
10 木 ⑩	火 ㊼			10 日 ㊶	日 ⑰
11 金 ⑩	水 ㊽			11 日 ㊷	月 ⑰
12 土 ⑩	木 ㊾			12 日 ㊸	火 ⑰
13 日 ⑪	金 ㊿			13 日 ㊹	水 ⑰
14 月 ⑪	土 ㊿			14 日 ㊺	木 ⑰
15 火 ⑪	日 ㊿			15 日 ㊻	金 ⑰
16 水 ⑪	月 ㊿			16 日 ㊼	土 ⑰
17 木 ⑪	火 ㊿			17 日 ㊽	日 ⑱
18 金 ⑪	水 ㊿			18 日 ㊾	月 ⑱
19 土 ⑪	木 ㊿			19 日 ㊿	火 ⑱
20 日 ⑫	金 ㊿			20 日 ㊿	水 ⑱
21 月 ⑫	土 ㊿			21 日 ㊿	木 ⑱
22 火 ⑫	日 ㊿			22 日 ㊿	金 ⑱
23 水 ⑫	月 ㊿			23 日 ㊿	土 ⑱
24 木 ⑫	火 ㊿			24 日 ㊿	日 ⑲
25 金 ⑫	水 ㊿			25 日 ㊿	月 ⑲
26 土 ⑫	木 ㊿			26 日 ㊿	火 ⑲
27 日 ⑬	金 ㊿			27 日 ㊿	水 ⑲
28 月 ⑬	土 ㊿			28 日 ㊿	木 ⑲
29 火 ⑬	日 ㊿			29 日 ㊿	金 ⑲
30 水 ⑬	月 ㊿			30 日 ㊿	土 ⑲
31 木 ⑬	火 ㊿			31 日 ㊿	日 ⑲
1 元 ⑫	金 ㊿			1 日 ㊿	月 ⑲
2 水 ⑫	土 ㊿			2 日 ㊿	火 ⑲
3 木 ⑫	日 ㊿			3 日 ㊿	水 ⑲
4 金 ⑫	月 ㊿			4 日 ㊿	木 ⑲
5 土 ⑫	火 ㊿			5 日 ㊿	金 ⑲
6 日 ⑬	水 ㊿			6 日 ㊿	土 ⑲
7 月 ⑬	木 ㊿			7 日 ㊿	日 ⑲
8 火 ⑬	金 ㊿			8 日 ㊿	月 ⑲
9 水 ⑬	土 ㊿			9 日 ㊿	火 ⑲
10 木 ⑬	日 ㊿			10 日 ㊿	水 ⑲
11 金 ⑬	月 ㊿			11 日 ㊿	木 ⑲
12 土 ⑬	火 ㊿			12 日 ㊿	金 ⑲
13 日 ⑭	水 ㊿			13 日 ㊿	土 ⑲
14 月 ⑭	木 ㊿			14 日 ㊿	日 ⑲
15 火 ⑭	金 ㊿			15 日 ㊿	月 ⑲
16 水 ⑭	土 ㊿			16 日 ㊿	火 ⑲
17 木 ⑭	日 ㊿			17 日 ㊿	水 ⑲
18 金 ⑭	月 ㊿			18 日 ㊿	木 ⑲
19 土 ⑭	火 ㊿			19 日 ㊿	金 ⑲
20 日 ⑮	水 ㊿			20 日 ㊿	土 ⑲
21 月 ⑮	木 ㊿			21 日 ㊿	日 ⑲
22 火 ⑮	金 ㊿			22 日 ㊿	月 ⑲
23 水 ⑮	土 ㊿			23 日 ㊿	火 ⑲
24 木 ⑮	日 ㊿			24 日 ㊿	水 ⑲
25 金 ⑮	月 ㊿			25 日 ㊿	木 ⑲
26 土 ⑮	火 ㊿			26 日 ㊿	金 ⑲
27 日 ⑯	水 ㊿			27 日 ㊿	土 ⑲
28 月 ⑯	木 ㊿			28 日 ㊿	日 ⑲
29 火 ⑯	金 ㊿			29 日 ㊿	月 ⑲
30 水 ⑯	土 ㊿			30 日 ㊿	火 ⑲
31 木 ⑯	日 ㊿			31 日 ㊿	水 ⑲
1 火 ⑮	月 ㊿			1 日 ㊿	木 ⑲
2 水 ⑮	火 ㊿			2 日 ㊿	金 ⑲
3 木 ⑮	水 ㊿			3 日 ㊿	土 ⑲
4 金 ⑮	木 ㊿			4 日 ㊿	日 ⑲
5 土 ⑮	金 ㊿			5 日 ㊿	月 ⑲
6 日 ⑯	土 ㊿			6 日 ㊿	火 ⑲
7 月 ⑯	日 ㊿			7 日 ㊿	水 ⑲
8 火 ⑯	月 ㊿			8 日 ㊿	木 ⑲
9 水 ⑯	火 ㊿			9 日 ㊿	金 ⑲
10 木 ⑯	水 ㊿			10 日 ㊿	土 ⑲
11 金 ⑯	木 ㊿			11 日 ㊿	日 ⑲
12 土 ⑯	金 ㊿			12 日 ㊿	月 ⑲
13 日 ⑰	土 ㊿			13 日 ㊿	火 ⑲
14 月 ⑰	日 ㊿			14 日 ㊿	水 ⑲
15 火 ⑰	月 ㊿			15 日 ㊿	木 ⑲
16 水 ⑰	火 ㊿			16 日 ㊿	金 ⑲
17 木 ⑰	水 ㊿			17 日 ㊿	土 ⑲
18 金 ⑰	木 ㊿			18 日 ㊿	日 ⑲
19 土 ⑰	金 ㊿			19 日 ㊿	月 ⑲
20 日 ⑱	土 ㊿			20 日 ㊿	火 ⑲
21 月 ⑱	日 ㊿			21 日 ㊿	水 ⑲
22 火 ⑱	月 ㊿			22 日 ㊿	木 ⑲
23 水 ⑱	火 ㊿			23 日 ㊿	金 ⑲
24 木 ⑱	水 ㊿			24 日 ㊿	土 ⑲
25 金 ⑱	木 ㊿			25 日 ㊿	日 ⑲
26 土 ⑱	金 ㊿			26 日 ㊿	月 ⑲
27 日 ⑲	土 ㊿			27 日 ㊿	火 ⑲
28 月 ⑲	日 ㊿			28 日 ㊿	水 ⑲
29 火 ⑲	月 ㊿			29 日 ㊿	木 ⑲
30 水 ⑲	火 ㊿			30 日 ㊿	金 ⑲
31 木 ⑲	水 ㊿			31 日 ㊿	土 ⑲

2018年度 キャンパス（学部）レビュー

1. 2018年度 振り返り

【人文学部】

(1) 学生募集（取組み、成果）

入学定員管理の厳格化を徹底した結果、歴史学科は入学定員60名に対して60名が入学し、表現学科も入学定員85名に対して85名が入学して、目標を100%達成することができた。

また、志願者大幅増の要因としては、私立大学の入学定員管理の影響という外的要因に加え、内的要因としては、オープンキャンパスの内容の工夫、高校訪問、出前授業などの振り返りを地道に行った結果、オープンキャンパスの参加者数が前年比増加したことが挙げられる。

(2) キャリア支援（取組み、成果）

第2期生の就職希望者全員が内定を取得し、前年度に引き続いて就職内定率100%を達成した。キャリアガイダンスやゼミを通じた教職協働体制での就活支援が効果をあげたと言える。前年同様、歴史学科では教職免許取得学生の多くが教職に就き、表現学科でも学科の学びを生かした進路に進んでいる学生が多い。

課題としては、次年度以降も高い就職内定率を維持しつつ、学生が目指す分野での就職を増加させるためにも、学生のキャリアガイダンス出席率を促進する更なる具体案を検討する必要がある。保護者と教職員のコミュニケーションを活発化することも期待される。

(3) 正課活動（取組み、成果）

表現学科・歴史学科ともに特色ある授業を展開して、学生の満足度向上に努めている。授業は講義だけでなく、アクティブ・ラーニングなどの双方向性の形態を取り入れて学生が能動的に学習をすすめるスタイルを積極的に導入している。

(4) 正課外活動（取組み、成果）

両学科共に数多くのフィールドワークを実施して、従来の座学中心の授業にとどまらず、学外の施設に学生を案内して、幅広い学びの体験を可能にしている。国内外の特色あるフィールドワークの様子は、参加した熱心な学生がブログで随時紹介を行っている。

2. 次年度への課題、方策

- ・入学定員管理の厳格化に努めた結果、両学科共に入学者数は入学定員通りであった。次年度も、引き続き厳格な定員管理を行うと共に、志願者が増加するようにオープンキャンパスの内容、高校訪問、出前授業に検討を加える。
- ・歴史学科では主として教職、学芸員関連、表現学科でも学科での学びを生かした就職先の内定が成果をあげつつあるが、次年度も教職協働のもと、就職説明会、キャリアガイダンスの内容に検討を加えて就職支援をさらに強化してゆく。

以上

1 学生の受け入れ

関連委員会	募集・入試委員会
関連部署	アドミッションセンター東京オフィス
関連データ	学生（表2）、学部・学科における志願者・合格者・入学者の推移（表3）

2017年度大学年報

【次年度に向けた課題】

オープンキャンパスの参加人数は増加させることが出来たが、受験生の参加人数は、減っていたため、参加した受験生が出願に結びつくような対応をしていくことが課題になってくる。

また、これまで以上に入学定員の厳格化を図る必要があるため、入学定員の確保と共に入学定員の管理を徹底する。

1 2018年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

(1) 活動方針

募集・入試委員会所属の教員とアドミッションセンター職員が万全の教職協働体制を構築して、掲げた目標を実現させる。

(2) 目標

- ① 高校への出前授業の回数を前年度より増加させる。
- ② オープン・キャンパスの参加人数を前年度より増加させる。
- ③ 歴史学科、表現学科ともに入学定員管理を厳格化し、入学定員を確保する。

2 具体的計画

PLAN

- ① 出前授業の回数を前年度より増加させるために、業者との関係を緊密にする。
- ② オープン・キャンパスの参加人数を前年度より増加させるために、学科別の興味あるイベント・模擬授業を計画する。
- ③ 合否判定を慎重に行い、入学者数管理を徹底する。

3 取組状況

DO

- ① 高校への出前授業は、前年度と概ね同じ回数を実施することができた。
- ② オープン・キャンパスの参加人数は、受験生906名（前年度は、830名）、保護者493名（前年度444名）で、大幅に増加した。
- ③ 歴史学科は60名定員に対して60名、表現学科は85名定員に対して85名が入学した。

4 点検・評価

CHECK

- ① 前年度と概ね同様の回数の出前授業を実施することができた。次年度も、更に積極的に参加ができるよう教職協同で進めてゆく。
- ② オープン・キャンパスの参加人数は前年度を上回ったが、更なる増加のために学科別の興味あるイベント・模擬授業を計画してゆく。
- ③ 入学定員どおりの数の入学者であったことは評価できる。

5 次年度に向けた課題

ACTION

オープンキャンパスの参加人数は前年度を上回ったが、次年度も増加させるために、参加者のニーズに対応できるようなプログラムを構築し、来場者の満足度を高める。

志願数の大幅な伸びに伴い志願倍率が高くなったため、次年度は隔年減少が予想されるが、歴史学科、表現学科ともに入学定員管理を厳格に行いながら定員を充足させる。

以上

2 教育課程①〔歴史学科〕

関連委員会	教学委員会・教育向上委員会
関連部署	学生支援部
関連データ	

2017年度大学年報

【次年度に向けた課題】

今後は、より学生が能動的に学修できるように、学生を授業の運営に積極的に関与させるなどの工夫を行う必要がある。そのためには、教員は単なる教育者ではなく、教育活動におけるコーディネーターやプロデューサーとしての役割を果たすことが求められている。

1 2018年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

(1) 方針

- ① 専門分野における基礎的知識を自らの手で体系的に取得できるように、歴史学を構成する主要分野に対する学び方を教授する。
- ② 各専門分野に結びつく幅広い内容や専門的スキルを修得させる。
- ③ 理論的知識や能力を実務に応用できるような能力を開発する。
- ④ 歴史学の学問体系の理解を基礎として、これらを総合的に実践できるような能力を身につけさせる。

(2) 目標

- ① アクティブラーニングを導入している科目の60%以上において、学生がより主体的に取り組むことができるように運営形態に工夫を加える。
- ② 学科独自のルーブリックを導入している科目の60%において、学生が自らの手で自らの成長を確認できるように内容に改善を加える。
- ③ **成果指標** 地域貢献を視野に入れ、学生が主体となって、地方自治体をはじめとする地域の人々と連携しながら教室外プログラムを開発できるような体制を整える。

2 具体的計画

PLAN

- ① 1年を通じて、学生がより主体性を発揮できるアクティブラーニングのあり方について、学科会等で検討し学生が参加できる環境をととのえる。
- ② 1年を通じて学科独自のルーブリックが学生間において互いを評価できるものとなっているかどうか、学科会等で検討を加える。
- ③ 1年を通じて、教室外プログラムの実施に先立ち、必要に応じて地方自治体を始めとする地域の人々と協議を行う。その一連のプロセスの中で学生が主体的に関わることができるような体制を整える。

3 取組状況

DO

- ① アクティブラーニングの情報交換のため、学科会を利用したFDを行い、学生が主体的に取り組む工夫を共有し、個々の教員が実践した。
- ② 学科会を利用したFDにより、学科独自のルーブリックを改善した。
全教員会にて非常勤講師から、歴史学科のルーブリックを共有したい旨、要望があり、S-Naviの共有フォルダにて共有した。
- ③ 板橋区および八潮市との連携による学外プログラムを、学生が主体となって実施した。その情報発信は、ブログにて学生主体で行われた。

4 点検・評価

CHECK

おおむね目標は達成できていると評価できる。

①については専任教員間で、授業におけるアクティブラーニングの手法と効果を共有し、授業改善に向けた学科全体での取り組みを深化させることが求められる。

②については開発したルーブリックの使用状況を確認し、更なる改善を図るとともに新たなルーブリックの開発を目指したい。

③については現在の連携プログラムのバリエーションを増やしつつ、学生主体による活動の情報発信の在り方を、さらに深化させていくことが求められる。

5 次年度に向けた課題

ACTION

アクティブラーニングの手法に関しては、個々の教員は個別に工夫・努力を重ねている。今後はそれを、学科全体の共有知として活かす方法を模索していく必要がある。ルーブリックは、多くの教員が積極的に取り組んでおり、今後もこの流れを継続・加速させていく。地域連携のプログラムのいくつかは、軌道に乗ってきているが、さらに学生が主体的に関わっていくプラットフォームづくりが求められよう。

以上

2 教育課程②〔表現学科〕

関連委員会	教学委員会・教育向上委員会
関連部署	学生支援部
関連データ	

2017年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- (1) 学生の就職率は目標を達成できたといえるが、今後は、就職率を維持しつつ、学生満足度の高い就職、表現学科の特性を活かした就職を実現するために支援体制の見直しも必要である。
- (2) 日本語検定受検を促しつつ日本語をはじめとする基礎学力を向上させ、これを日々の学習の成果・制作、そして、卒業研究につなげることは引き続き課題である。

1 2018年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 高い就職率を維持する。また、学生一人ひとりが満足できる就職活動・就職ができる支援体制をとる。
- (2) 日本語をはじめとする基礎学力を向上させ、これを日々の学習の成果・制作物、そして、卒業研究につなげる。
- (3) 本学科の教育手法として定着してきたPBLはじめアクティブラーニングをさらに発展させ、定着させる。
- (4) カリキュラム再編成に向けて確実に準備する。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 2017年度就職率100%の維持、さらに、学生満足度の高い就職が実現できるよう、ゼミ担当教員とキャリア支援室が連携し、支援していく。
- (2) 日本語をはじめとする基礎学力を向上させ、これを日々の学習・学習の成果物、そして、卒業研究につなげる。
- (3) 積極的に自治体・企業からの依頼を受け入れる。また、そのPBLはじめ、アクティブラーニングの手法を学科内で共有する。学生には、担当教員とのやりとりのみならず、学科のブログへの報告を義務付けることで、自身の学びを整理させる。
- (4) カリキュラム再編成に向けて、慎重かつ確実に進めていく。

3 取組状況

DO

- (1) ゼミ担当教員がよりキャリア支援に関わるよう、就職活動に関する面談、そして、キャリア支援室への記録による報告回数を倍増し義務付ける。自治体や企業とのPBLなどを積極的に取り入れることで学生の学びの場を広げる。インターンシップ、キャリア支援講座などの情報もS-naviにて、学生と同時にゼミ担当教員にも配信し情報の共有化を徹底。さらに、学科会で、全教員で情報を共有し、支援を求め合うことで、ゼミの枠を越えて、全教員で支援している。教員もキャリア支援に積極的に関わる体制を構築している。
- (2) 日本語検定の準会場試験を学内で実施することで、学生の受検料や試験会場への移動などの負担の軽減を図り、受検を促すことを継続する。一般教養科目に位置づけされる基礎学力の重要性を学期開始時のオリエンテーションなどで説明する。
- (3) 自治体や企業からの依頼を受け入れ、同時に複数のプロジェクトが動いている。また、学科内でその手法を共有している。学生の報告がブログに掲載されている。
- (4) 昨年度から議論を重ねてはいるが、さまざまな理由により次年度は改編できないことがわかったため、保留となっている。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 自治体・企業などとのPBLは、前年度と同数程度受け入れることができ、学生の学びの場が学外にも広がり、就職活動・就職にもプラスになった。就職率は100%を維持することができた。さらに、表現学科の特性を活かした就職は、マスコミ・広告・クリエイティブ・芸能・エンタテインメント・ITメディアなどで全体の3割に及んだ。就職支援体制は成果をあげたと言えるであろう。
- (2) 日本語検定11月の受検者は、前年の3倍となった。また、準会場試験を実施した団体受検校の中から、成績優秀団体に贈られる「東京書籍賞」が授与されるなど、基礎学力向上に関し、可視化できる成果となった。制作物や卒業研究などでも、興味関心にとどまらず、心理学・歴史学などからのアプローチを試みるものが増えている。しかし、学習成果を測定するまでには至っていない。
- (3) 自治体と5、企業と1のプロジェクトが動き、各プロジェクトがそれぞれ高い評価（新聞に記事として掲載される・警視庁管内に掲示される・表彰されるなど）を得た。
- (4) さまざまな理由により改編可能な時期が延びているため、学科としての決定には至っていない。

5 次年度に向けた課題

ACTION

学位に応じた学習成果を測定するための取り組みを充実させること、特に、卒業研究の評価法が今後の課題であろう。

カリキュラムについても、再編成を確実に準備・検討しなければならない。

また、積極的に自治体・企業などとのPBLを取り入れるだけでなく、学生、そして、教員のより深い学びにつなげられる仕組みを構築していくことも必要である。

以上

3 学生支援

関連委員会	教学委員会・ハラスメント防止委員会
関連部署	学生支援部
関連データ	

2017年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- (1) 成績不良者や欠席が多い学生の面談の結果について、情報の共有化に努める必要がある。
- (2) 淑徳祭については、現状では短大と合同で実施しているが、その中でも人文学部の学生の独自性が発揮できるような工夫が必要である。
- (3) 授業料未納の学生の保証人に対する連絡の方法など教学委員会の立場から総務部に働きかけていくような体制作りが必要である。
- (4) ハラスメント防止を啓蒙するリーフレットの作成が未完に終わり、ハラスメント防止の広報活動・啓蒙活動が遅れた。短期大学部と共同で東京キャンパスにおけるハラスメント防止のための諸活動を充実させる必要がある。
- (5) 学生が相談室を気軽に利用できるような環境作りに努める必要がある。また、アドバイザー教員と学生支援部職員、学生相談室の専門職員間において、可能な限り情報の共有化を図り、連携して学生の生活支援に努める必要がある。

1 2018年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) アドバイザーによる学生面談記録様式の統一化と一元管理の仕組みを構築する。
- (2) 人文学部の学生の独自性が発揮できるよう淑徳祭における活動を改善する。
- (3) 授業料未納者情報について、総務部と連携し随時情報共有できる仕組みを構築する。
- (4) 淑徳大学ハラスメント防止規程に基づいて、東京キャンパスでのハラスメントを防止し、ハラスメントのない・起きない快適な教育・職場環境を保証するための適切な活動を行う。
 - ① 教職員のハラスメント防止への意識を高め、ハラスメントを未然に防ぐために研修会を開催し、全員の出席を促す。
 - ② 学生のハラスメント防止に関する理解を深めるための啓蒙活動を行う。
- (5) 学生に対する教育支援のみならず、生活支援にも努める。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 成績不振者、卒業困難者、その他面談を要する学生とアドバイザー（または関連教員）との面談記録について、様式を統一し記録を学生支援部にて一元管理し、各アドバイザー（または関連教員）は、必要に応じて教学委員会（学生支援部）に申し出ることにより閲覧可能とする。
- (2) 今年度の淑徳祭では、人文学部の学生の独自性が発揮できる工夫をする。
- (3) 授業料納入状況について、総務部と連携し随時情報共有することで、退学除籍率および成績不振者の削減に努める。
- (4) ①ハラスメント防止研修会を前期、後期1回ずつ、合計年2回開催する。②ハラスメント防止に関するリーフレットを作成して教職員、学生全員に配布し、ゼミやクラスアワー等の時間を使って学生のハラスメント防止に対する意識を高める。
- (5) 学生が利用しやすい相談室のあり方を考える。教職員が連携して学生の生活支援に努められる仕組みを構築する。

3 取組状況

DO

- (1) 要面談学生（成績不振者、卒業困難者、出席不良者等）への個別面談を全本務教員に課し、

統一様式の報告書にて一元管理した。

- (2)今年度は、淑徳祭において人文学部の各学科の研究発表が時空間ともにパンフレットにも組み込まれ、両学科の特色を打ち出した研究成果発表の場となった。
- (3)毎月の教学委員会にて、学費納入状況（未納状況）を共有し、要面談対象者との照合を行いつつ、学業に取り組む姿勢、生活状況などの把握授業料滞納なども含む情報を定期的に共有することにより、学業に取り組む姿勢、生活状況などを把握した。また、必要に応じて、他の委員会、部署などとも連携している。
- (4)①ハラスメント防止研修会を前期7月、後期3月、合計年2回開催した。②ハラスメント相談リーフレットを作成し、ゼミ、クラスアワー等を通じて全学生に配布した。
- (5)学生相談室のパンフレットを全学生に配布し、さまざまな相談ができる相談室の存在を周知した。さらに、クラスアワーやゼミなどの時間、そして、学生面談時に学業以外の相談も可能であり、気楽に利用可能な学生相談室の紹介を行ってきた。また、教職員間でも可能な限り情報共有するよう努めた。

4 点検・評価

CHECK

- (1)面談の報告書の用紙を統一し提出を義務付けたことにより、面談の有無、状況、必要な支援などが把握しやすくなり、情報共有もしやすくなった。また、記録として残るため、アドバイザーや担当職員がかわっても、学生指導に役立てられるようになった。
- (2)人文学部の各学科の特色を打ち出した研究成果発表の場となった。
- (3)授業料滞納なども含む情報を委員会で定期的に共有することにより、教職員間、そして、他の委員会、部署などとも連携しやすくなった。
- (4)①ハラスメント防止研修会を予定通り2回開催し、当日欠席者は映像資料を見ることで全員が研修に参加した。②ハラスメント相談リーフレットを作成、配布し、学生へのハラスメント防止への意識を高めることができた。
- (5)教員自身が学生相談室の存在を把握し、積極的に学生指導に取り入れるようになった。また、アドバイザー教員と学生支援部職員、学生相談室の専門職員間において、可能な限り情報の共有化を図り、連携して学生の生活支援に努めている。

5 次年度に向けた課題

ACTION

学生がより良い環境で教育が受けられるよう、教務に関する事項について、計画的・効果的に実施していく必要がある。また、学生が充実した学生生活が送れるよう、学生厚生への支援についてもさらに検討していかなければならない。

学生が学業上・生活上で問題が生じた場合は、他の委員会・他部署と連携し、保護者とも連絡を取りながらの支援が求められよう。

研修会はキャンパス別に個別の内容で実施しているが、次年度は大学ハラスメント防止委員会での協議を経て内容の統一化を検討する。ハラスメント相談リーフレットの内容に修正する必要がある場合は見直しを行う。

以上

4 進路支援

関連委員会	キャリア支援委員会・教学委員会・教職課程運営委員会
関連部署	キャリア支援室・学生支援部
関連データ	

2017年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- 各学科において少人数ではあるが、教員やアナウンサーなど学科の特徴を活かした就職実績を作ることができた。同時に、進路の幅を広げることができた学生もいた。進路の選択に関わる支援について、必ずしも満足していない学生や保護者も存在する。今後は本学部の学生の特徴や気質を直視した上で、早めに進路選択の幅を広げるような指導を進めていく必要がある。
- 教育実習において辞退者が出てしまった原因として、教職課程担当教員が1年次前期に教職概論を担当した後、3年次後期の教育実習事前指導を担当するまで、教職課程履修学生を直接指導する場が制度として設けられていなかった点が大きな問題であると考えられる。今後は、教職課程担当教員が教職課程履修学生を4年間にわたり一貫して担当できるような指導体制を構築する必要がある。

1 2018年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

(1) 活動方針

ア キャリア支援

- (ア) 2018年度卒業生就職率95%以上を達成するために、学生の強みと弱みを把握し、学生自身にもそれを認識させながら、強みを伸ばし弱みに対する底上げを行う。
- (イ) 困難な進路をあえて選んだ学生については、現実を直視させると同時に、本人の真剣度を確認した上で必要に応じて最大限の支援を行う。
- (ウ) 学生が進学時に希望していた職業及び学科で学んだことが活かせる職業について多くの情報を提供し、学生自身が多様な選択をできるようにする。
- (エ) インターンシップの機会と可能性をさらに拡大する。

イ 免許支援

- (ア) 教員採用候補者選考の合格者を輩出する。
- (イ) 教育職員免許状を取得する過程において幅広い教養を身につけ、目指す職業に活用できる汎用的な能力を身につける指導を行う。
- (ウ) 学生が進学時に希望していた職業及び学科で学んだことが活かせる職業について多くの情報を提供し、学生自身が多様な選択をできるようにする。

(2) 目標

ア キャリア支援

- (ア) キャリアカウンセラーによる面談や支援の充実を図る。
- (イ) 公立学校教員採用候補者選考試験対策講座を開講し、教員志望者の受講率50%以上を目指す。また、表現に関する専門職の情報提供の場を1回以上もうける。
- (ウ) キャリア支援講座への出席を促しながら、適性検査受検率90%以上を目指す。
- (エ) インターンシップによる情報提供を組織的計画的に実施し、学生の就職の可能性を自らの体験を活かして広げていくような指導をする。

イ 免許支援

- (ア) 教職担当教員が教職課程履修学生を4年一貫して担任する指導体制を構築する。
- (イ) 学生の名簿を作成し、電話・メールアドレス、教育実習校等を共有する。
- (ウ) 板橋区教育委員会との連携を図る。

(エ) 淑徳中学校・淑徳高等学校との連携協力関係を構築する。

(3) 成果指標

学生個人が納得できる進路選択と意思決定の支援を行う。

ア 進路決定率 80%以上

イ 就職率 95%以上

2 具体的計画

PLAN

(1) キャリア支援

(ア) ゼミ担当教員を通して、3年生には必ずキャリア支援室へ行かせ、キャリアカウンセラーと面談させるように指導する。

(イ) ゼミ担当教員やアドバイザー教員を通して、教員志望者に対する公立学校教員採用候補者選考試験対策講座への出席を呼びかける。また他キャンパスや表現に関わる専門職の関係者から適宜情報を収集し学生に提供する。

(ウ) ゼミ担当教員やアドバイザー教員を通して、キャリア支援講座への出席を呼びかけて、適性検査の受検を促す。また、学生の保護者に対しても協賛会などの場を通してキャリア支援講座の重要性について口頭で述べると共にキャリアサポートガイドを配布し、最新情報の提供を図る。さらに、キャリア支援講座のカリキュラムについて、適宜業者と協議し、改善に努める。

(エ) インターンシップの重要性について、各学年のキャリア支援講座で喚起する。

(2) 免許取得支援

(ア) 正課外の取り組みとして毎週火曜日を教職指導日と定め、学習指導要領・教職教養・専門教養等の学修指導を行う。

(イ) 一人一人の学生理解に努め、適切な進路指導を行う。

(ウ) 教職を第一志望とする学生には、この取り組みの他に、火・木・金に正課外に試験対策指導を実施する。

3 取組状況

DO

(1) キャリア支援

(ア) キャリアカウンセラーによる面談や支援の充実を図った。

(イ) 公立学校教員採用候補者選考試験対策講座を開講し、教員志望者の受講率50%以上を目指した。

(ウ) 表現に関する専門職の情報提供の場を1回以上もうけた。

(エ) キャリア支援講座への出席を促しながら、適性検査受検率90%以上を目指した。

(2) 免許取得支援

(ア) 学修履歴へのコメント入力指導、介護等体験、教育実習巡回指導について、教職課程担当教員が履修学生を4年間一貫して担任する指導体制の構築を目指した。

(イ) 4年次生対象の教育実習を行うにあたり、知識面の向上及び心構えの涵養に努めた。

(ウ) 板橋区教育委員会との連携を充実させる目的のもと、教育実習を終えた学生による「教育実習報告会」の実施を目指した。

(エ) 淑徳中・高等学校との連携関係の構築を目指し、淑徳中・高等学校校長との協議及び実習担当教員との協議を行った。

4 点検・評価

CHECK

(1) キャリア支援

(ア) 3・4年生にはゼミ担当教員を通じてキャリア支援室への訪問を指示した。3・4年生のキャリア支援室への訪問は80%を超えた。

(イ) 8月に教員採用候補者選考試験の対策講座を実施し、教員志望者の受講率は50%を超えた。

(ウ) 前期にテレビ朝日アスクによるアナウンサー養成講座を実施し、放送表現や編集表現の職種に関わるインターンシップの機会を提供し周知し、9名の参加があった。

(エ) 適性検査受検率については、90%に及ばなかったが、80%を超えた。

(2) 免許取得支援

- (ア) 教員及び職員の役割分担を明確にし、各場面での指導を一貫して行う体制を調えることができた。
- (イ) 「淑徳大学教育実習検定」を実施し、大半の学生が実習前に取得しておくべき事柄に関して確認した上で、教育実習に臨むことができた。
- (ウ) 板橋区教育委員会から講師を派遣していただき、「教育実習報告会」を無事開催することができた。
- (エ) 実習生受け入れの内諾を得ることができた。

5 次年度に向けた課題***ACTION***

(1) キャリア支援

本学人文学部のキャリア支援については、限られた予算と人員の中で工夫を重ねてカリキュラムを充実させている。

問題はこの事実が学生及び保護者に対して、あまり伝わっていない点である。この点がキャリア支援講座における適性受検率の伸び悩みにつながっていると思われる。一方で、卒業生の保証人からは「大学は何もしてくれなかった」といった不満の声も委員長の耳に入ってくる。

このような事態を改善するためには、学生及び保護者に対して、自らの手で進路を選択しなければならないという主体性を身につけることが必要であるという働きかけをすること、キャリア支援の実際についてより詳細かつ具体的な情報発信を行うことができるような方策を考えることが必要とされよう。

また、表現学科の専門職の情報提供についても折角、その場を設定したにも関わらず参加する学生が少ないという事実がある。この問題に対処するために、情報提供のタイミングや内容について、さらに見直しをはかる必要がある。

(2) 免許取得支援

2018年度の教育実習にあたり、実習開始直前で単位不足により実習を辞退する学生が発生し、その対応に追われることになった。

次年度以降は、教職課程履修者全体への呼びかけとともに、個別的な面談を重ねることによって、介護等体験や教育実習に臨むにあたっての心構えを十分に意識させる必要がある。

以上

5 研究活動

関連委員会	自己点検評価委員会
関連部署	総務部・教育研究支援センター
関連データ	淑徳大学人文学部研究論集第4号、教育研究費内訳(表8)

2017年度大学年報

【次年度に向けた課題】

科学研究費助成事業を始めとする外部資金獲得に向けて、更なる申請、獲得の増加を促進する。研究業績として年間2本以上の論文執筆が達成できるように周知徹底をはかる。

1 2018年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 教員の研究活動を促す。
- (2) 専任教員は、年2本以上の学術論文等を執筆し、研究実績を積み重ねていく。
単著のない教員は、早い時期に単著を公刊する。また、専任教員は全員、科学研究費を申請する。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 「人文学部論集」、学会誌、学術雑誌等に論文を投稿するように促す。
- (2) 学科長が科学研究費申請を促す。

3 取組状況

DO

- (1) 年2本以上の学術論文等の執筆目標は概ね達成することができた。「人文学部論集」には、10編の論文、自洗報告が掲載され、うち8編が専任教員によるものであった。
- (2) 科学研究費は7件申請された。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 年2本以上の学術論文等の執筆目標をすべての専任教員が達成することはできなかった。
- (2) 科学研究費は7件申請されたが採択はなかった。

5 次年度に向けた課題

ACTION

当初の目標であった年2本以上の学術論文等の執筆をすべての専任教員が達成するためには、研究論文発表の予定、進捗状況の確認を学科ごとに定期的に行うこともその一助となろう。科学研究費については、新たな申請を促し採択件数増を目指す。個人研究費の傾斜配賦については未申請の教員もいるため、申請を促す方策を検討する。

以上

6 社会貢献

関連委員会	教学委員会、教職運営委員会、ボランティアセンター運営委員会、地域連携センター運営委員会
関連部署	学生支援部、ボランティアセンター、地域連携センター
関連データ	2018年度 淑徳大学 大学地域支援ボランティアセンター活動報告書、 大学地域連携センター年報 第3号、淑徳大学 東京キャンパス ボランティアニュース Vol. 61、 淑徳大学人文学部研究論集 第4号

2017年度大学年報

【次年度に向けた課題】

包括連携協定を結ぶ板橋区あるいは八潮市との新しいプログラム開発の可能性をさぐる。地方自治体と連携しての社会貢献活動を発展継続するために、東京キャンパスでサービスラーニングセンターといった専門部署を立ち上げることも検討したい。

地方自治体と連携しての社会貢献活動を発展継続するために、東京キャンパスでサービスラーニングセンターの機能を担う専門部署あるいは人員を置くことも検討したい。

1 2018年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) **成果指標** 包括連携協定を結んでいる自治体との間で、産学連携による教育・研究の取り組みを推進する。
- (2) **成果指標** 地域や企業と連携した社会貢献活動に、各教員が積極的に取り組む。
- (3) ボランティアセンターから学生への情報提供や活動支援をはかり、学生の主体的な社会貢献活動を促す。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 包括連携協定を結んでいる自治体（板橋区、八潮市）との連携事業の実施。
 - ア 学習支援ボランティア（板橋区 教育委員会）
 - イ 認知症サポーター養成講座（板橋区 おとしより保健福祉センター）
 - ウ 八潮こども大学での体験授業の実施（八潮市 学校教育部）
- (2) 包括連携協定を結んでいる自治体の文化財担当者等との間で協議を行い、産学連携活動の新たなプログラム開発の可能性を探る。
- (3) 専任教員は年間に1件ほどの地域連携、産学連携を計画し実行する。
 - ア 歴史学科の正課科目「歴史調査実習Ⅰ」「博物館概論」「日本地域史」「教職概論」における地域連携（板橋区立郷土資料館、板橋区公文書館、都市農業係）
 - イ 表現学科の正課科目および正課外活動における連携の検討と実施
- (4) 学生に対してボランティア活動の情報提供と啓蒙活動を強化する。
 - ア ボランティア活動助成制度の新設
 - イ 広報誌ボランティアニュースの学生スタッフ募集

3 取組状況

DO

- (1) 板橋区、八潮市と継続している各連携事業について、計画通りに実施した。
 - ア 学習支援ボランティアでは、5月に説明会を行い、歴史学科の教職課程履修学生を中心に参加登録がなされ、年間で延べ80名の参加があった。
 - イ 認知症サポーター養成講座は、短期大学部との共催で11月に開催し、歴史学科の教職課程の履修学生の「介護等体験」の事前学習と連携した。
 - ウ 八潮こども夢大学は、12月に「比べてみよう昔の暮らし」をテーマに開催した。詳細はボランティアニュースに掲載。
- (2) 包括連携協定を結んでいる自治体との新たなプログラムについて文化財担当者等との間で協

議を行ったが、具体的なプログラムの開発には至らなかった。

(3) 専任教員による地域連携、産学連携について、以下の取り組みがなされた。

ア 歴史学科の正課科目「歴史調査実習Ⅰ」「博物館概論」では、板橋区立郷土資料館と連携した実習を実施。「日本地域史」では、板橋区公文書館での調査研究と板橋区内でのフィールドワークを行い、その研究成果を人文学部研究論集に論文としてまとめた。また、「教職概論」では板橋区役所・都市農業係と連携した農業体験を実施し、その成果は大学地域連携センター年報に掲載した。

イ 表現学科の正課科目および正課外活動において、地域や企業と連携した活動について各専任教員が計画し、実施した。

- ・高齢者特殊詐欺防止ポスターの企画・制作とキャンペーン参加（志村警察署）
- ・板橋区内のイベントでの学生スタッフの参加（板橋区文化・国際交流財団）
- ・訪日外国人向けの冊子を企画・制作し、区役所や国際交流団体にて配布
- ・飲料メーカー、地域スーパーと協働した広告ポスターコンテストの実施（キリンビバレッジ、オオゼキ。大学地域連携センター年報に掲載）

また、板橋区からの協力要請があった以下のプロジェクトに学生参加を促した。

- ・食品ロスを減らすためのPR動画の企画・制作
- ・板橋区MOTENASHIプロジェクト（区内の他大学の学生と進める半年間のPBL）

(4) ボランティアセンター経由のボランティア活動状況（年間延べ参加数）は、歴史学科147名、表現学科161名、計308名だった。歴史学科では学習支援ボランティア、表現学科では市民劇の裏方ボランティアやイベントの運営補助等、学科の特色も見られた。また、今年度では以下の活動支援、啓蒙を強化した。

ア ボランティア活動助成制度を新設し、学生が主体的に行うボランティア活動における必要経費の助成を開始した。

イ 広報誌「ボランティアニュース」の編集スタッフに表現学科4名（3年生1名、1年生3名）が応募し、企画・取材・執筆・デザインを学生が担当した。卒業生取材等、新たな切り口を盛り込み注目率の高い仕上がりになった。

4 点検・評価

CHECK

学部の4学年が揃って2年目を迎え、各学科の学びの特徴や専門性を生かした社会貢献活動が充実してきた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

地域と連携した新たなプログラムを開発するとともに、社会貢献活動の継続性を視野に入れた体制整備についても検討が必要である。

以上

7 自己点検・評価

関連委員会	自己点検評価委員会
関連部署	総務部、教育研究支援センター
関連データ	

2017年度大学年報

【次年度に向けた課題】

引き続き、科学研究費はじめ外部の研究資金の導入を積極的に行う。各教員は、学術論文等を年2本以上執筆する。学部としては、教育と研究を両立させることができる環境づくりを進める。

1 2018年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 各委員会の自己点検・評価に関する事項の確認を行う。
学科、委員会の活動をPDCAサイクルの視点で定期的に点検・評価する。
- (2) 1. 認証評価「適合」に向けて包括的な自己点検・評価を行う。
2. 各学科、委員会の活動計画、中間報告、活動報告を年3回にわたり確認する。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 大学自己点検・評価委員会と学部自己点検・評価委員会の緊密な連携を図る。
- (2) 学科、各委員会の活動計画、中間報告、活動報告を確認するために定期的に自己点検・評価委員会を開催する。

3 取組状況

DO

- (1) 認証評価「適合」に向けて、スケジュール通り準備を行い、包括的な自己点検・評価を行った。
- (2) 計画通り年3回、自己点検・評価委員会を開催し、各学科、委員会の活動計画、中間報告、活動報告を確認した。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 認証評価は「適合」であったが、今後も大学自己点検・評価委員会からの指示に迅速に対応してゆく。
- (2) 次年度も自己点検・評価委員会で、各学科、委員会の活動計画、中間報告、活動報告を定期的に確認する。

5 次年度に向けた課題

ACTION

大学として「適合」評価を得た認証評価に対して、学部、学科として今後も改善してゆくべき事項の点検・評価を着実にを行い、大学自己点検・評価委員会からの指示に迅速に対応する。

以上